

**【第13分科会】 連携・接続
研究課題 家庭・地域等との連携及び協働と学校段階等間の接続の推進**

1 分科会の趣旨

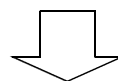
【研究課題の背景・現状】

- ◇学校・家庭・地域がそれぞれの教育力を発揮し、バランスのとれた教育が展開され、こうした取組の中で子どもを育てていくためには、学校・家庭・地域等の連携及び協働をより具体化させ、それぞれの役割と責任を自覚した取組を推進する必要がある。
- ◇学校の内外を問わず子どもの生活や学習の充実と活性化を図るとともに、保・幼・小・中学校間の「段差」や「切れ目」を緩和し、子どもたちの連続的な発達を意識し、相互理解のもと、実効性のある取組を展開していくことが大切である。

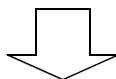
【研究課題解決の方向性】

- ◇連携及び協働の役割を自覚し、学校や地域等の実態に応じてリーダーシップを発揮しながら、地域とともにある学校づくりや学校段階等間の円滑な接続、そして、それらに伴う教育環境の整備等を推進していく。

過去6大会の成果と
前年度の課題



背景・現状を踏まえて、具体的方策と成果を明らかにする



2 研究の視点

- (1) 家庭・地域等と連携及び協働を深め、創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進
 - ・地域とともにある学校として、継続的、双方向的な連携及び協働を推進し、中心的な役割を果たすことが期待されている。
 - ・一層家庭・地域等の人々と目標やビジョンを共有し、地域とともにある学校として連携及び協働を深化させていく。
- (2) 成長の連続性を生かした学校段階等間の接続の推進
 - ・保・幼・小・中学校が、それぞれの相互理解と連携を深めることにより学校間の「段差」を緩和し、「小1プロブレム」や「中1ギャップ」の課題解決を図る。
 - ・学校段階等間において連続的に子どもの心身の調和のとれた成長を図ることができるよう、積極的な連携を図る。

3 「校長の果たすべき役割と指導性を究明する」ための協議の柱

- ① 家庭・地域等と連携及び協働を深め、創意ある教育活動を展開する学校づくりをどのように推進するか。
- ② 成長の連続性を生かした学校段階等間の接続をどのように推進するか。

第13分科会 「連携・接続」家庭・地域等との連携及び協働と学校段階等間の接続の推進

【視点①】 家庭・地域等と連携及び協働を深め、創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進

「家庭・地域との連携を生かした学校づくりの推進と校長の役割～連携の充実と継続を目指して～」

山梨県 上野原市立上野原西小学校 校長 藤巻 豪

1 趣 旨

近年、社会は大きく変化し表出する課題も複雑化・多様化している。これらの課題解決のために学校にできることは限界があり、家庭・地域・関係機関との連携が不可欠である。また、新学習指導要領には、「地域に開かれた教育課程」の意義とその実現に向けて社会との連携と協働の重要性が言及されるなど、信頼される学校づくりと連携による教育活動推進が求められている。

校長は、信頼される学校づくりと連携推進において、その意義と役割を自覚し、より円滑で充実した連携となるよう環境づくりを推進していかなければならない。

2 研究の概要

北都留地区研究会では、家庭・地域・関係機関との連携の具体と成果と課題について、互いに紹介し合いながら協議してきた。次のような4観点を設定し、特色ある事例を紹介する。

- (1) 保護者・地域との連携（大月市立猿橋小学校）
- (2) コミュニティ・スクールの取組（上野原市立島田小学校）
- (3) 小規模校における連携（丹波山村立丹波小学校）
- (4) 関係機関（大学）との連携（上野原市立上野原小学校）

<メモ>

【発表内容に関すること】

【自己の実践等に関すること】

○有効な取組

○疑問・改善

◇「校長の役割と指導性」について、協議内容を簡潔にまとめると…【キーワードかキーセンテンスで】

☆参考キーワード

双方向的な連携・協働
コミュニティ・スクール

地域とともにある学校
ランドデザイン

リーダーシップ
地域の教育資源

【視点②】 成長の連続性を生かした学校段階等間の接続の推進

「学校段階等間の効果的な連携と円滑な接続を推進するための校長の在り方」

秋田県 由利本荘市立岩谷小学校 校長 高野 宏明

1 趣 旨

子どもたちを取り巻く環境が大きく急激に変化している状況の中、学校は、次代を担う子どもたちの「生きる力」を育んでいかなければならない。子どもたち一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を育成するためには、保・幼・小・中学校を見通した指導を行うことが重要である。そこで、効果的な連携と円滑な接続を推進する上での校長の果たすべき役割と指導の在り方を明らかにするため、本主題を設定した。

2 研究の概要

- (1) 本荘由利地域の学校段階等間の連携・接続について実態を把握し、課題を整理する。
 - (2) 学校段階等間の連携・接続の在り方や課題解決を推進する校長の役割を明確にする。
- 平成29年度に本荘由利地域の学校段階等間の連携・接続について実態把握を行ったところ、「教員の交流」「園児、小・中学生の交流」「コミュニティ・スクール機能を生かした連携・接続」「保・幼・小・中学校を見通した計画等の作成と活用」など各地区で様々な取組が行われているが、「成長の連続性を意識した効果的な取組」という面では課題もあることが分かった。そこで、課題解決に向け、平成30年度本荘由利校長会では、共通実践事項「中学校区学力向上推進計画への成長の連続性を意識した取組の位置付け」「連携・接続の必要感をもたせる指導」を設定して取り組んできた。効果的な連携と円滑な接続を推進するための校長の在り方について、実践例をもとに発表する。

<メモ>

【発表内容に関すること】

【自己の実践等に関すること】

○有効な取組

○疑問・改善

◇「校長の役割と指導性」について、協議内容を簡潔にまとめると…【キーワードかキーセンテンスで】

☆参考キーワード

成長の連続性

学校段階等間の接続

コミュニティ・スクール

キャリア教育

「小1プロブレム」「中1ギャップ」の課題解決

積極的な連携

過去6大会の成果と前年度の課題

領域V 教育課題 第13分科会 連携・接続

<p>25 三重 大会</p>	<p>研究課題 家庭・地域・異校種等との連携・接続の推進 視点1 家庭・地域等と連携し、社会貢献する学校づくりの推進 視点2 幼・保・小・中等との連携と円滑な接続のための組織的な取組の推進 <input type="checkbox"/> 発表者の報告及び参加者の討議の中で、「学校と地域が双方向につながり、人とひとをつなげる」ことが信頼される地域に根付いた学校づくりを進めることになり、また「子どもの育ちや学びをつなげる連続した一貫性のある教育活動」を創り出すことが学校教育の推進力になることを確認し合えた。</p>				
<p>26 埼玉 大会</p>	<p>研究課題 家庭・地域等との連携と異校種間の接続の推進 視点1 家庭・地域等と連携した開かれた学校づくりの推進 視点2 異校種間学びの連続性を重視した取組の推進 <input type="checkbox"/> 校長の強い信念とリーダーシップのもと家庭・地域等と連携した開かれた学校づくりが推進された。校庭の里山化（ももっこプロジェクト）に取り組み、そこに「田んぼ」「緑のカーテン」「ビオトープ」を児童と作ったり、保護者や地域を環境整備の応援団に巻き込んだりと、信頼関係を築く組織作りができた。</p>				
<p>27 山口 大会</p>	<p>研究課題 家庭・地域等との連携と異校種間接続の推進 視点1 家庭・地域等と連携し、充実した教育活動を展開できる学校づくり 視点2 異校種間の学びの連続性を重視した取組の推進 <input type="checkbox"/> 校長が主導した地域参画型学校づくりにおいて、地域との協力体制が深まり、教育活動に対して理解と協力が得やすい関係を築けた。 <input type="checkbox"/> 地域の教育資源を活用した体験活動を展開することで、子どもたちに、地域の一員であることや地域に支えられていることを実感させ、愛着を感じさせることができるようになることを確認した。</p>				
<p>28 高知 大会</p>	<p>研究課題 家庭・地域等との連携と異校種間接続の推進 視点1 家庭・地域と連携し、創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進 視点2 成長の連続性を生かした異校種間接続の推進 <input type="checkbox"/> 学校と地域が双方向に繋がり、活動の意義や目標を共有して良好な関係を築くことが大切であり、互惠性のある取組が積極的な取組の推進に繋がる。 <input type="checkbox"/> 多忙感を伴わず、継続した取組とするためにも、既存の組織や実践を生かし、工夫し発展させるという視点が大切である。また、所属長同士が何でも話せる関係になり、ベクトルを合わせることも重要である。</p>				
<p>29 佐賀 大会</p>	<p>研究課題 家庭・地域等との連携と異校種間接続の推進 視点1 家庭・地域等と連携し、特色ある教育活動を展開する学校づくりの推進 視点2 成長の連続性を生かした異校種間接続の推進 <input type="checkbox"/> 校長は、学校と家庭・地域をつなぐリーダーであり、将来を見通した学校経営ビジョンをもつことや校長同士の横のつながりは、地域全体の活性化につながる。 <input type="checkbox"/> 異校種間の職員同士の連携を深めたり、ミドルリーダーを育成したりすることにより、「小1プロブレム」や「中1ギャップ」などの課題が解消される。</p>				
<p>30 北海道 大会</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">成 果</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">課 題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <input type="checkbox"/> 学校は情報発進するとともに地域や保護者の思いや願いを取り入れる取組がなされている。 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクールの実施に向けた体制づくりが進められている。 <input type="checkbox"/> 小・中学校においては合同研修会が開催され、生徒指導及び学習指導に関する連携が深まり、幼保小でも引き継ぎ会で連携が進んでいる。 </td> <td style="vertical-align: top;"> <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民や保護者、中学校と目標や目指す子どもの像の共有化に向けた方策をどのように具体化していくか。教育行政との具体的道筋をどう進めていくか。 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の多忙感・負担感を考慮しながら、有効な連携・接続を築いていくための手立てをどうするか。教育課程への位置付けと活動内容の工夫改善等はどう取り組むか。 </td> </tr> </tbody> </table>	成 果	課 題	<input type="checkbox"/> 学校は情報発進するとともに地域や保護者の思いや願いを取り入れる取組がなされている。 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクールの実施に向けた体制づくりが進められている。 <input type="checkbox"/> 小・中学校においては合同研修会が開催され、生徒指導及び学習指導に関する連携が深まり、幼保小でも引き継ぎ会で連携が進んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民や保護者、中学校と目標や目指す子どもの像の共有化に向けた方策をどのように具体化していくか。教育行政との具体的道筋をどう進めていくか。 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の多忙感・負担感を考慮しながら、有効な連携・接続を築いていくための手立てをどうするか。教育課程への位置付けと活動内容の工夫改善等はどう取り組むか。
成 果	課 題				
<input type="checkbox"/> 学校は情報発進するとともに地域や保護者の思いや願いを取り入れる取組がなされている。 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクールの実施に向けた体制づくりが進められている。 <input type="checkbox"/> 小・中学校においては合同研修会が開催され、生徒指導及び学習指導に関する連携が深まり、幼保小でも引き継ぎ会で連携が進んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民や保護者、中学校と目標や目指す子どもの像の共有化に向けた方策をどのように具体化していくか。教育行政との具体的道筋をどう進めていくか。 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の多忙感・負担感を考慮しながら、有効な連携・接続を築いていくための手立てをどうするか。教育課程への位置付けと活動内容の工夫改善等はどう取り組むか。				

(各大会の集録より一部引用)